

国際コミュニケーション学部

# 英語学科

*You feel closer to the world.  
A great future lies before you.*



# 活躍するフィールドを世界に広げるために。

「アメリカ文化研究」「異文化間コミュニケーション」を専門とし、研究を進める塚本鋭司教授と、愛知大学国際コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科\*を卒業し、グローバル企業で活躍する伊木アンドレさん。恩師と教え子の関係である2人に、“英語”という言語の可能性や、これからの社会のグローバル化について、それぞれの視点から語っていただきました。

## 英語を学ぶことは、その国の文化を知ること。

**伊木:**2012年に愛知大学を卒業後、味の素株式会社に就職しました。現在は営業業務を担い、社内プロジェクトを取りまとめるリーダーとして奮闘しています。

**塚本:**伊木さんは学生時代、教員をめざして教職課程をとっていましたよね。進路変更のきっかけは何でしたか？

**伊木:**当初は英語教員をめざしており、3年次に行った留学も“教員をめざすうえでのステップアップ”と捉えて臨んだのですが、思いがけず世界の広さを知りました。留学先であるアメリカのサウスイーストミズーリ州立大学は世界各国から人が集まる場所で、同年でありながらすでにベンチャー事業を立ち上げている学生もいました。多くの刺激を受け、もっと広い意味で世の中に貢献したいと思い、一般企業への就職に進路を変更しました。日本のみならず、広く世界に貢献できるという点で、「食品業界」に惹かれました。

**塚本:**留学から帰ってきた伊木さんは、視野が広がり、一回り大きくなったと感じました。帰国後「日本の大学の体制を改善すべきだ!」と言っていました。あの言葉にはどんな意味がありましたか？

**伊木:**覚えています。学生の意識の差を感じ、つい過激なことを言っていました。アメリカの授業では、必ず学生同士で討論が繰り広げられます。みんな自分の意見を持って「私はこう思う」と力強く発言していました。日本ではあまり見られない光景だったので、とても衝撃的でした。同時にそこで、自分の考えを英語で伝える難しさも痛感しました。思っていることを英語で伝えるには時間がかかるので、考えているうちに次の話題に移ってしまい、なかなか発言できず悔しい思いをしたからこそ、語彙力の向上に力を入れました。

**塚本:**私もアメリカの大学院に通っていたとき、同じ体験をしました。日本人は、完璧な英語を話したくて、数秒でも考え込んでしまいますよね。もとより、小中高の学びのなかで染みこんだ学びのスタイルは、日米間で大きな違いがあるので、私のゼミでは、討論を軸としたアメリカの学びのスタイルを取り入れています。

**伊木:**塚本ゼミの授業では毎回、先生がセレクトした映画を観て、英語で討論やプレゼンテーションなどを行ったことを覚えています。楽しみながらジェンダーや人種にまつわるアメリカのバックグラウンドへの理解を深めることができたので、興味深く取り組んでいました。

**塚本:**表面的ではなく、英語の奥にある文化を知ってほしいという思いで、ゼミを行っています。アメリカの文化や国民性、社会問題にまつわる映画を学生たちに見せ、映画に関する文献を読んで、自分なりの考察を発表します。本当はアメリカに行くのが一番ですが、行ったからといって理解できるものでもありません。本や学術論文を読まないと理解できない部分があるので、異文化を知るきっかけとして、このような手法を取り入れています。

言語コミュニケーション学科\*  
2012年卒業  
伊木 アンドレさん  
(味の素株式会社)

\*2013年4月 英語学科に名称変更

## 情報通信技術が進歩する時代に英語を学ぶ意義とは。

**塚本:**伊木さんは世界30カ国にオフィスを構える、いわば“グローバル企業”に勤めていますが、実際の現場ではどのような人材が求められていますか？

**伊木:**語学力はもちろん強みになるし、今後ますます必要になってくるでしょう。しかし、ただ翻訳したような英語を話すのではなく、現地の文化に合わせて、現地の人に受け入れられる伝え方で、言語を「ツール」として活用できる力が重要だと思います。例えば、弊社には海外食品部という部署がありますが、海外に事業展開するには現地でフィールドワークを行います。どのような環境下でどのように人々が暮らしているのか、どのようなものの消費量が多いのかなどを調査するのは、その国のことを知ることが、異文化コミュニケーションの第一歩です。

**塚本:**特に食文化が密接に関係していますね。ユダヤ教徒のコーシャフードやイスラム教徒のハラールフードなど、自身の信条で口にするものを限定している人もいて、海外のスーパーにはそういったコーナーが設けられていることもありますよね。

**伊木:**最近はIT技術が著しく発達し、スマートフォン一つあれば翻訳してくれる機能もあり、ネット上にはたくさん情報が溢れています。しかし、食は「情緒的価値」が大きく、食べることで得られる安心感や幸福感といったものは、直接自分でコミュニケーションをとり、肌で感じとらなければわかりません。今後どれだけ便利な情報機器ができたとしても「英語を学ぶ価値」はなくなると思います。

**塚本:**同感です。英語を勉強していないと、正しい情報を判断するのは難しいです。また、ネイティブの人と話すとき、どうしても運用能力の点において劣勢になりますが、歴史や文化を知ることによって、初めて相手と対等に話することができます。

**伊木:**近い将来、海外転勤を望んでいます。それが実現すれば、現地の人々のリーダーとして共に働くことになりませんが、働き方に対する考え方も違いますし、どういう言葉で語りかければ響くのか、どういう目標を立てて、どういう評価をすべきか……という点でも文化を尊重しつつコミュニケーションをとっていければと思っています。

## 国内外において必要なグローバルな視点。

**伊木:**私は9歳の頃にブラジルから日本に来たので、国際的な視野は広いと思っていましたが、1年次に受講した「異文化間コミュニケーション」を通して語学だけではなく各国の文化を知り、留学を通して将来の選択肢が広がり、日本だけに留まらず広く世界に貢献したいという新たな目標を見つけました。

**塚本:**目標をしっかり持ち、大学時代に自分の視野をどんどん広げていった伊木さんですが、これから大学生になる方へアドバイスをすれば、どのような声をかけますか？

**伊木:**将来の進路が具体的に決まっていなくても、「こういう大人になりたい」「こんな人生を送りたい」というイメージは持てるはず。そのイメージに近づく意識を持っているだけで、入ってくる知識の量は変わってくると思います。今はネットやSNSですぐに情報を得ることができますが、自身で取捨選択することが重要です。いろいろなことに挑戦できる大学生活の過ごし方を、自分なりに考えてほしいです。

**塚本:**伊木さんは、世界で活躍する道を選びましたが、日本国内においてもグローバルな視点は必要です。特に名古屋地区は製造業が盛んなので、海外からの視察や業務提携を行なうなど、訪問してくる人は今後も増えていくでしょう。

**伊木:**はい。愛知大学には興味・関心を掻き立てるバラエティに富んだ授業やゼミ活動があり、留学制度も整っているので、日常的に興味のアンテナを張りながら積極的に異文化に触れていってほしいと思います。

英語学科  
塚本 鋭司教授

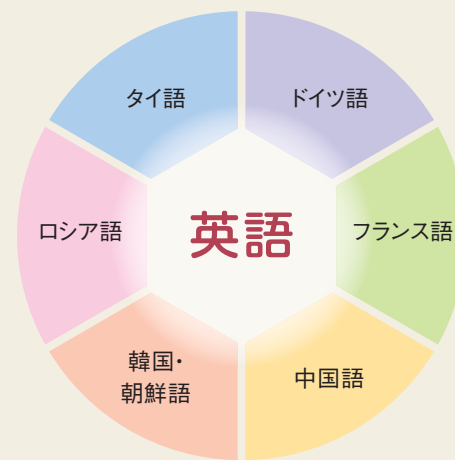
# 英語を軸とした +α の学び。

国際共通語である英語について「聞く・読む・話す・書く」力を段階的に伸ばし、総合的な英語運用能力を身につけます。さらに、国際社会において世界の人々と対等にわたり合えるコミュニケーション能力の修得をめざし、英語の枠にとらわれない+αの力を身につけます。

## 英語 + 他言語

### 第二外国語をじっくり学ぶ。

言語には、それを使う人々の歴史や社会が反映されます。単純に「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能の修得にとどまらず、異文化を理解することに繋がります。英語学科では、広く国際的視野を養うために、第二外国語となるドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、ロシア語、タイ語の共通教育科目を設置しています。入学時に希望の言語科目を選択し、2年次終了時点で交換留学生として選抜されるレベルまで引き上げます。また、4年間を通して第三、第四と多言語学習が可能です。



## 英語 + 運用能力

### 実践的な運用能力を養う。

さまざまなシチュエーションにおいて「使える英語」の修得をめざしたカリキュラムを組んでいます。英語での「コミュニケーション力」を積み上げていくために1～3年次でBasic→Developing→Intermediate→Advancedと展開されるCommunication Skills科目や、「書く力」を身につけていくWriting科目など、段階的に英語運用能力を高めるカリキュラムを整えています。これによりTOEICスコアが卒業するまでに平均150～200点アップしています。

#### 科目 PICK UP

##### ▶ Basic Communication Skills I

学生同士で英語による会話やディスカッションを行いながら、自分の考えを自信を持って発言できるレベルをめざします。

##### ▶ Advanced Communication Skills I

グループやペアでプレゼンテーションを準備、構成、発表することにより、より高度な英語コミュニケーション能力を養成します。

##### ▶ Paragraph Writing I

基本的なライティングスキルに基づいて、適切に段落を構成するスキルを向上させます。物語的、記述的、プロセス的など、さまざまなタイプのパラグラフフォームに挑戦します。

## 英語 + 他分野科目

### 文系総合大学だからこその学び。

英語はコミュニケーションツールであり、社会に出て実際に英語を運用する際は、語彙や文法などの語学力のみならず「英語で何を話すか」の部分が重要となってきます。例えば、卒業後にビジネスに関わるのであれば、経済学部や経営学部の科目を受講することで、中身のある会話につながるビジネスの専門的な知識を身につけることができます。このように、自分の興味や将来の進路に合わせて、他学部の科目から幅広く学ぶことができます。

#### 隣接・関連分野の一例

法学部	・民法総則I・II ・比較法I・II ・会社法I・II など
経済学部	・日本経済入門 ・マクロ経済学入門 ・ミクロ経済学入門 など
経営学部	・国際経営論 ・国際マーケティング論 ・異文化マネジメント など



## 現地教育で身につける力。

### I 国際フィールドワーク

国際フィールドワークは、現地調査を通して異文化に対する理解を深める科目です。事前に、調査する国の文化や社会について学んだのち、自分が興味のあるテーマを設定します。その後、長期休暇を利用して2週間の現地調査を行い、現地で見聞した事柄を調査結果として次学期にまとめます。課題発見・解決能力や異文化理解力を養うとともに、グローバル社会で求められる自身のアイデンティティ確立をめざします。

#### これまでの活動事例

##### 〈アメリカ合衆国〉 ハワイの文化と歴史を学ぶ

事前学習として、日系人の歴史や教育、観光産業について学び、現地ではホテルや幼稚園、高校や大学、日系人が経営する食料品店などを訪問し、定めたテーマに基づき、インタビューを行いました。



ハワイ大学マノア校

##### 〈イギリス〉 イギリスの文化遺産を訪ねて

イギリス南西部にあるコーンウォール地方を訪問。ナショナルトラストによる史跡の保存や自然環境保護の活動について調査し、帰国後、現地が抱える課題や解決案を報告書にまとめました。



イギリス・コーンウォール

### I 充実の留学制度

愛知大学では、学生のニーズにきめ細かく応える多様な留学制度を用意しています。大学を休学することなく、4年間で卒業できるプログラムが多いのも特長。年間約400名の学生が日本を飛び出し、語学や専門科目を学ぶことで、人間的にも精神的にも大きな成長を遂げています。

#### 交換留学 【半年～1年】

13カ国・地域42大学とのネットワークが多彩なキャンパス環境と留学生活を実現しています。選考で選ばれた学生は大学に学費を納めることで、留学先大学の学費が免除になり、かつ奨学金が支給されます。

#### 認定留学 【半年～2年】

海外留学先の大学で修得した単位を愛知大学の卒業単位に認定する制度(30単位を上限)です。指定の大学で英語を中心に学習する「1セメスター認定留学プログラム」もあります。

#### 海外短期語学セミナー 【約4週間】

夏季・春季休暇を利用し、毎年多くの学生が参加しています。ホームステイや寮で生活し、週末には旅行などが体験できる4週間です。国際的視野を広めるのに最適なプログラムとなっています。

# 自分の目標に近づく3つのコース

## 内定者Voice

### Language Studies コース

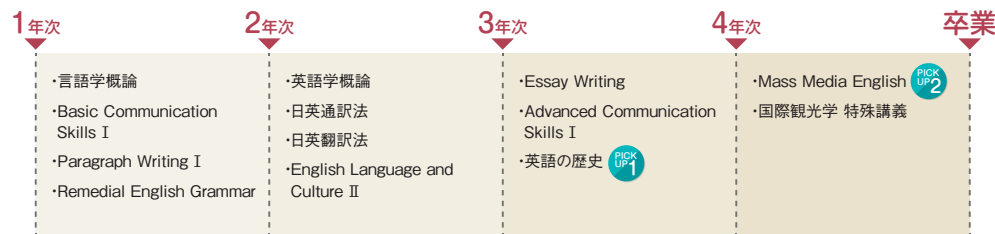
### 英語コミュニケーション能力向上をめざす

高度な英語運用能力と言語文化に対する深い理解を基礎に、国際社会で対等に渡り合えるコミュニケーション能力を養います。

ココをめざすなら!

グローバル企業  
通訳・翻訳家

#### 4年間の流れ



#### 英語の歴史

古英語や中世の英語から現代の形に至るまで、どのように英語が変移してきたのかを学び、英国の歴史や社会変化との関連を理解します。



#### Mass Media English

New York Timesの記事を読みながら、パラグラフを意識した読解力を高める訓練を行なうとともに、アメリカについての理解を深めます。



英語学科 4年 松坂 雄大さん  
愛知県立岡崎北高校出身

### [アイシン・エイ・ダブリュ株式会社]

### 行動力とともに、2カ国語を身につけた交換留学。

入学前から留学することを決めており、1年次から国際交流課を活用して情報を収集。第二外国語でドイツ語を学んでいたことから留学先をドイツに決め、2年次に念願の交換留学に行きました。語学力の向上はもちろんですが、世界を見て自分の知見を広める目的もあったため、週末や夏季休暇期間を利用してフランスやイギリス、オランダなどヨーロッパ9カ国を周遊。現地の方と触れ合いながら、各国の文化を見聞できたことは貴重な経験です。滞在中は、日常生活ではドイツ語、大学の授業では英語を話していたため、ともに不自由なく会話できるレベルまで修得することができ、帰国後、独検2級と、TOEIC810点を取得しました。3年次は履修科目が多く大変でしたが、1年間留学に行っても4年間で卒業できる点は大きなメリットだと感じます。「Mass Media English」の授業では、留学だけでは修得できなかったメディア独特の表現方法を学びました。限られたスペースで多くの情報を伝えるためのbe動詞や冠詞を省略した新聞記事の特性や、「lol」のようなネット用語など、より生活に身近な英語を知ることができ興味深かったです。4年間を通して海外の言語や文化を学んだことで、母国である日本の魅力も再認識できました。

### Business コース

### エアライン・国際ビジネスの分野で活躍をめざす

企業の海外事業・国際流通部門、エアライン、旅行、ホテル業界で通用する、高い語学能力と国際理解力を養います。

ココをめざすなら!

航空関係  
観光業界

#### 4年間の流れ



#### Tourism and Airline Industries

空港のグランドスタッフ、キャビンアテンダント、観光業界で働きたい学生に必要な基礎教養を学び、ホスピタリティマインドを醸成します。



#### Business in Asia

将来、日本をはじめとしたアジア地域で働きたい学生向けの授業です。アジアのビジネスについて英語で学び、ビジネス英語のスキルアップをめざします。



英語学科 4年 月岡 美聡さん  
三重県立桑名高校出身

### [全日本空輸株式会社(ANA)]

### 「伝わる英語」の修得が、コミュニケーションの自信に。

中学、高校の頃から英語への関心が高かったため、留学制度が充実しており、さらに通いやすいという点で愛知大学へ。2年次進級前の春季休暇を利用して、カナダのクイーンズ大学へ1カ月間の海外短期語学セミナーに参加しました。留学中はホームステイを経験し、日本語が通じない場所での自己表現の難しさを実感。また、思うように自分の英語が通じず悔しい思いをしたため、帰国後はネイティブの先生と積極的に話し、TOEICの勉強にさらに力を入れました。2年次で受講した「英語音声学」では、発音記号を学び、実際に自分の発音を録音するというを行いました。何度も繰り返し発音練習することで正しい発音を修得し、「伝わる英語」に近づけることができたと思います。また、留学を通して行動力が身につく、正しい英語を学んで自信が生まれたことで、街中でも海外の人と躊躇せずに英語で話すことができるようになりました。この頃から、英語を活かしながら人と関わる仕事に就きたいと考え、TOEIC850点を取得するまでになり、憧れであった客室乗務員への道が開けました。英語はコミュニケーション手段の一つですから、今後はお客様の様子から感情を読みとれるように気持ちを忘れず、またソムリエ資格に挑戦するなど、語学以外のスキルもあわせて成長させていきたいです。

### Education コース

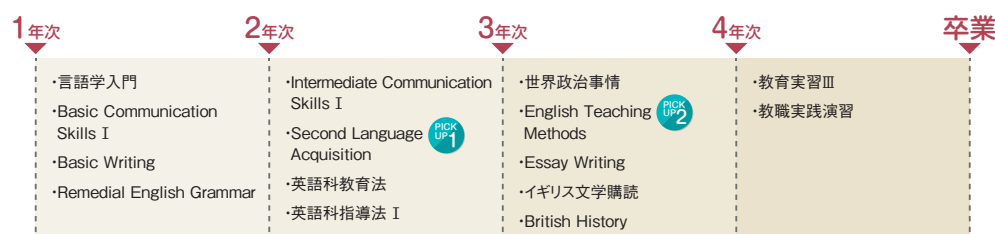
### 英語教員をめざす

外国語学習の基礎・背景、教授法などを理解し、小・中・高および幼児教育に携わる英語教員をめざす人材を養成します。

ココをめざすなら!

英語教員  
日本語教員

#### 4年間の流れ



#### Second Language Acquisition

第二言語を修得するための語学学習や学習に関わる性質、プロセスや理論について英語で学び、高い理解を促します。



#### English Teaching Methods

英語を教える際に採用されているさまざまな方法について、英語で学んでいきます。実際に自分が教壇に立った際に、どんな方法を用いることができるのか考えます。

### [愛知県教育委員会(中学校・英語)]

### 興味や視野を広げてくれる英語の魅力を伝えたい。

2年次に1セメスター認定留学でカナダのクイーンズ大学へ留学しました。留学中は各種行事へ積極的に参加したり、ホストファミリーと共にDVDを観て分からなかった単語や表現を解説してもらったり、週末には街に出て現地の方に話しかけて会話を楽しんだり、とことん英語に浸かりました。その甲斐あって、リスニング力とスピーキング力が格段に向上し、寝言でも英語を話すほどに。これを機に、さらに英語を学びたいと考え、1年間休学し留学へ。オーストラリアでは、ドキュメンタリー映像を観て感じたことを講論したり、ビーチや街中でインタビューや調査研究を行ったり、アクティブな学びを体験。英語で意思疎通を図り、自己表現をする楽しさややりがいを日々感じ、英語で人とつながる魅力も子どもたちにも伝えていきたいと考え、英語教員をめざしはじめました。さらにヨーロッパで広く使われている英語を学びたいと考え、次はイギリスへ。国民性やイントネーションの違いを実感し、自分の英語が伝わらず衝撃を受けました。舌の使い方や発音ひとつひとつを教わりながら、イギリス英語を修得しました。3カ国での留学を通し、各国の英語や歴史、文化の違いに触れ、英語がさらに好きになり、自分の考えを持つこと、そしてそれを自分の言葉で伝えることの大切さを学びました。その結果、英検準1級取得もできました。子どもたちには「自ら興味・関心を持ったことに対して、挑戦することや夢を叶えるためには、惜しみなく行動力を発揮すること」を伝えていきたいです。



英語学科 4年 三輪 帆乃香さん  
愛知県立津島高校出身

愛知大学  
名古屋キャンパス

名古屋駅地区

ささしまライブ  
で学ぶ



## 社会とつながる地を活かし、実践的に学べる環境がある。



中部圏を代表する都市・名古屋市。その玄関口にあたる名古屋駅は、鉄道各線を通じて首都圏・近畿圏、および中部圏主要都市へとつながるほか、2027年にはリニア中央新幹線が開業予定と、今後ますます都市機能の高度化とグローバル競争力の向上が期待されます。そんな中心地から徒歩約10分、名古屋市が国際歓迎・交流拠点としてまちびらきをした「ささしまライブ」に、愛知大学名古屋キャンパスは位置します。政治・経済・文化・国際交流などさまざまな情報発信力を持つ名古屋市。その中で最も新しいまちと一体化しているキャンパスは、社会とのつながりを身近に感じる実践的な学びの場です。

### Global Lounge

#### キャンパス内で、異文化交流を楽しむ。

学生間や学生・教員間の異文化交流・理解促進、外国語による発信力やプレゼンテーション能力の養成を目的として、Global Loungeがオープンしました。外国人ネイティブ教員(英語・中国語・フランス語)が常駐しており、いつでも気軽に外国語で会話をすることができます。

